

音楽科学習指導案

日 時 平成 24 年 5 月 25 日 (金) 第 1 校時
 対 象 2 年 1 組 (男子 20 名 女子 20 名 計 40 名)
 指導者 教 諭 徳 永 賢 子

1 題材 「歌声の違いを感じ取り、世界の音楽の多様性を理解しよう」

2 指導目標

- (1) 郷土の民謡及び世界の諸民族の音楽に興味・関心を持たせる。
- (2) 曲種に応じた発声の違いや言葉の特性を理解して、それらを生かした歌唱表現を工夫させる。
- (3) 民謡の特徴や音楽を形づくっている要素を生かした歌唱表現をさせる。
- (4) 郷土の民謡及び世界の諸民族の音楽の特徴から、音楽の多様性を理解して聴き取らせる。

3 題材の評価規準

- (1) 様々な音楽の特徴に関心を持ち、表現や鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。
- (2) その音楽にふさわしい発声や言葉の特性を大切にしながら歌唱表現を工夫している。
- (3) 拍子や速度、強弱が生み出す雰囲気、旋律と言葉の関係を理解し、それらを生かした歌唱表現ができる。
- (4) 音楽の特徴を背景となる風土や文化・歴史と関連付けてとらえ、その音楽の多様性を理解して鑑賞している。

4 教材

「サンタルチア」ナポリ民謡 小松 清 日本語詩 川崎祥悦 編曲

「行きゅんにゃ加那」 日本民謡 鹿児島県

世界の諸民族の音楽 「ウズン ハワ」トルコ

「グリオの歌」セネガルなど

「京劇」 中国

「ヒメネ」ポリネシア

「ヨハン大公のヨーデル」スイス

5 題材について

(1) 題材設定の理由

本題材は中学校学習指導要領、第 2 学年及び第 3 学年の表現の内容「(1)イ曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと」と、鑑賞の内容「(1)ウ我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること」を柱とし、その音楽にふさわしい発声や言葉の特性を大切にしながら歌唱の表現をしたり、単に多くの音楽がある

ことを知識として得るだけでなく、人々の暮らしとともに音楽文化があり、様々な特徴を持つ音楽が存在していることを理解したりすることを目指して設定した。

本題材で郷土と世界の音楽を比較しながら学習することにより、自らの音楽に対する価値意識を広げ、人類の音楽文化の豊かさに気づき、尊重することにつながっていくと考える。

(2) 教材について

「サンタルチア」はナポリ民謡の一つである。原語歌詞と作曲はテオドーロ・コットラウ（1827～1879）であろうといわれている。ナポリ湾に面した絵のように美しい港を讃え、船頭が自分の船に乗って夕涼みするよう誘いかける歌詞である。3拍子のリズムの雰囲気や速度の変化などから、この曲がもつ明るさ、波が寄せては返すような雄大な曲想などを感じ取り、おおらかで豊かな表現を通してカンツォーネの魅力を味わえる教材である。イタリア語で歌うことを体験し、言葉の発音と音楽との密接な関係に気づかせることができる。また、鑑賞を通してのびやかな美しい歌声に触れ、曲種に応じた発声について学習することができる。

「行きゅんにゃ加那」は北部奄美の代表的な島唄の一つである。作詞、作曲共に不詳。素朴で簡易なメロディーであるため、三線の稽古で最初に習うことが多く、また、奄美出身の唄者によって、よく歌われる曲である。男女の別れを歌ったという説と生者と死者の別れを歌ったという説がある。伝承音楽である「島唄」の表現方法を学び、生活の中に息づいている音楽に触れることができる教材である。

世界の諸民族の音楽は、諸地域から声の魅力が伝わってくる音楽を選んだ。

ウズンハワはトルコの歌の様式の一つである。「長い歌、長い旋律」という意味を持ち、拍節のない自由なリズムをソロで歌う。音域は広く、音を長く引き延ばしたり、旋律をユリヤコブシで飾ったりする。

グリオとは、西アフリカに住む語り部兼音楽家の人々を指す。伝統的に世襲制であり、家族の年代記、儀礼歌、物語、教訓などを継承し、弾き語りをしたり、楽器のみで内容にふさわしいメロディーとリズムを演奏することによって伝えたりする役割をもっている。

京劇は中国の伝統的な音楽劇のことを指す。俳優には歌、セリフ、仕草、立ち回りの4つの技能が要求されるが、中でも、歌は重視されており、裏声と地声を登場人物の役柄によって分ける独特の発声法が特徴である。

ヒメネとは、ポリネシ諸島タヒチ島を中心に伝わる混声合唱形式の歌唱を指し、8～10の声部に分かれて無伴奏で歌われる。多彩な声の響きを聴くことができる。

ヨーデルはスイスのアルプス地方やオーストリアのチロル地方で歌われる民謡の一形態である。地声と裏声を急速に交替させる独特の発声法が特徴である。

これらの曲を、声の音色や節回しなどの音楽的な特徴に注目しながら鑑賞させたい。また、映像資料を活用してその国の景観や人々の暮らしなども紹介し、この学習を契機にして諸民族の音楽に親しんでいくようにさせたい。

(3) 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく素直に授業に取り組んでいる。1年時の印象に残っている音楽活動を聞いたところ、歌曲「魔王」の鑑賞活動と多くの生徒が答えた。また、6割を越える生徒が鑑賞活動の方が表現活動より好きと答えている。1年後期に箏曲「六段」の鑑賞を行った際も、ピアノと箏の比較鑑賞を通して、箏の音色の特徴をとらえ、意欲的に鑑賞し、学習したことを表現活動に生かそうとする態度が見られた。鑑賞活動と表現活動を関連付けることで、より音楽活動への意欲が高まると考える。

日本の民謡、郷土の民謡や世界の諸民族の音楽についての生徒の関心は低く、「あまり興味がない」「まったく興味がない」と8割の生徒が答えている。理由として「聴く機会がなく、親しみを持ってない」「テンポが遅く、おもしろくない」と、挙げている生徒が多い。また、日本・郷土の民謡についても知っている曲が少なく、世界の諸民族の音楽にいたっては、イメージもわからない状況であった。日常生活の中で、日本・郷土の民謡や世界の諸民族の音楽に触れる機会が少ないことが原因であると考えられる。そこで、卒業式の1・2年合同合唱を通して、合唱の魅力に気づき、歌うことへの関心が高まりつつある今、歌声の違いを聴き取らせる活動から、世界の音楽に興味を持たせ、多様な音楽文化を体感させたい。

(4) 指導にあたって

生徒の実態を踏まえ、本題材を扱うにあたり次のようなことに留意して学習を進めていきたい。

- ア 表現活動と鑑賞活動を関連させた音楽活動を体験することを通して、新たな音楽に意欲的に取り組む姿勢を育てたい。
- イ 比較鑑賞を通して、歌声や音楽の文化の違いを感じ取らせ、その音楽にふさわしい歌唱表現を工夫できるようにさせたい。
- ウ 民謡の特徴をとらえさせ、その曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かした歌唱表現をさせたい。
- エ 郷土の民謡及び世界の諸民族の音楽の特徴から、音楽の多様性を理解して鑑賞する能力を高めさせたい。

6 指導計画 (全3時間)

時	主な学習活動	教材	単位時間における評価規準			
			音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1	1 範唱CDを聴く。 2 カンツォーネについて知る。 3 イタリア語で歌う。	サン タ ル チ ア	・カンツォーネに関心を持ち、表現する学習に主体的に取り組もうとしている。	・カンツォーネの音色、リズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫している。	・曲にふさわしい音楽表現をするために拍子や速度、強弱を生かした表現ができる。	・カンツォーネの音色、リズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を聴き取り、カンツォーネのよさや美しさを味わって聴いている。
2 (本時)	1 「サンタルチア」を歌う。 2 郷土の民謡「行きゆんにゃ加那」を聴き、発声や言葉の特徴などを「サンタルチア」と比較しながら聴き取る。 3 「行きゆんにゃ加那」を歌う。	サン タ ル チ ア 行 き ゆ ん に ゃ 加 那	・曲にふさわしい声や言葉の特性に関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。	・民謡の音色、リズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫している。	・曲にふさわしい音楽表現をするために、音楽を形づくっている要素を生かした歌唱表現ができる。	・民謡の音色、リズム、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を聴き取り、民謡のよさや美しさを味わって聴いている。
3	1 諸民族の歌の一部を聴き、どこの国あるいはどこの地域の音楽か確認する。 2 諸民族の歌を聴き、声の特徴、言葉の特徴などを比較しながら聴き取る。 3 資料を読み、それぞれの音楽について理解を深める。	世 界 の 諸 民 族 の 音 楽	・世界の諸民族の様々な音楽の特徴と音楽の多様性に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。			・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を聴き取り、世界の諸民族の音楽から音楽の多様性を理解して鑑賞している。

7 本時の実際 (2/3)

(1) 目標

ア 民謡への興味・関心を高めさせる。

イ 歌詞や旋律、音色から楽曲のもつ独特の曲想を感じ取り、曲にふさわしい歌唱表現を工夫させる。

ウ 曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かした歌唱表現をさせる。

エ 民謡のよさや美しさを味わわせ、音楽の多様性を聴き取らせる。

(2) 評価規準

ア 曲にふさわしい声や言葉の特性に関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。

イ 民謡の音色, リズム, 構成を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫している。

ウ 曲にふさわしい音楽表現をするために, 音楽を形づくっている要素を生かした歌唱表現ができる。

エ 民謡の音色, リズム, 構成などを知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を聴き取り, 民謡のよさや美しさを味わって聴いている。

(3) 展開

時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点 (◆は評価の観点)
5分	1 ウォーミングアップをし, 「サンタ ルチア」を歌う。	一斉	○ 明るい雰囲気を作りながら伸び伸びと歌唱させる。
3分	2 本時の目標について知る。 曲の特徴やよさを感じ取って, 表現を工夫しよう。	一斉	○ 本時の目標と授業の流れを理解させる。 ・ 前時の学習を振り返りながら, 特徴の観点を提示する。 ・ 本時は曲の特徴をつかみながら, 表現を工夫していくことを理解させる。
18分	3 「行きゆんにや加那」の演奏を聴き, 曲の特徴を整理する。 4 歌詞について知る。 5 「行きゆんにや加那」を聴きながら, 歌詞のワークシートに特徴を記入する。	一斉 個人 一斉 個人	○ 曲名を伏せて, 音のみで聴かせる。 ◆ 評価 ア ○ 歌詞の内容を理解させ, 島唄の雰囲気をじっくりと味わわせる。 ○ 歌詞の周りに図などを使って特徴をわかりやすく記入させる。 ◆ 評価 エ
17分	6 範唱に合わせて音取りをする。 7 島唄の特徴的な部分を練習する。 8 7で練習した部分を班ごとに練習する。 9 班ごとの練習で努力した点, 工夫した点を発表する。	一斉 グループ 一斉	○ 範唱を聴いてそれをまねる活動を通して, 島唄独特の発声を感じさせる。 ○ 島唄の特徴を生かしながら練習させる。 ◆ 評価 ア・イ・ウ ○ とらえた島唄の特徴をワークシートに記入させる。 ◆ 評価 イ
7分	10 「行きゆんにや加那」を歌う。 11 本時のまとめをし, 次時の活動の確認をする。	一斉 個人	○ 曲にふさわしい歌唱表現を伸び伸びとさせる。 ○ ワークシートに本時の活動のまとめとして, 感想を書かせる。